



サビエル生誕五百年

巡礼の道

185

藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)

きょうを生きる

一月八日に満七十歳になった。自分の年齢が信じられない。日本人の平均寿命は女性八十六歳、男性八十歳。

急速に高齢社会になった今日、本当の年齢と実感年齢との間にかかなりの差を感じるのには私だけではあるまい。

大半の人が実年齢よりもっと若いつもりである。このギャップをどう埋めるかが高齢社会を上手に生きるポイントのように思える。紀元七〇〇年ごろ、唐の詩人、杜甫が生きた時代は七十歳まで生きる人はまれであった。

十代をどう生きるか巡礼記を書きながらいろいろ考えた。

「ホスピタリティ」「賛美、感謝、祈り」「歴史を生きる」「前向きに挑戦」—自分の巡礼記からこれらの言葉を讀み取ることが出来る。そして、まとめとして今回は七十代の生き方「きょうを生きる」とした。

今年もらった年賀状の中に「一日を生きる」という言葉があった。本紙延安記者の今年のスローガンである。

多分、私と同じ気持ちで、あすではなく、きょう一日を大切に充実させて生きるという目標であろう。

特に私には「あす」という言葉が逃げ口上酒をよく飲んだ私は「このままでは駄目になる」からと毎日、酒をやめようと思った。

その結果、あすから酒をやめるため毎日、酒屋で一合余りのワン

カップ焼酎を買った。ある日、女将が「お客さん、大瓶で買われた方がお得ですよ」と言った。百も承知である。しかし、あすからやめるためには大瓶は足りない。しかも飲み過ぎの原因にもなる。

その結果、毎日、酒屋に立ち寄り、毎日、飲んだ。あすではなく、きょうをどう生きるかである。

「あすからやめよう」という意欲だけでも立派と慰めてくれた人もいたが、できないことをあすに託した失敗はもう許されない年齢になった。あすは飲むかもしれない。とにかくきょう飲まなければそれより良い。聖書にあるようにあすのことで思いわずらうな、だ。

サンタクロースや馬小屋のイエスに「きょうをあなたの気持ちに従って生きられますように」とお願いし、家中、クリスマスの飾りでいっぱいにしたのだから、効果はいかに。

若い美女に囲まれたのだが…



クリスマスや誕生日にワインをプレゼントされても、今のところきょうのように生きているのである。

そのベトナム巡礼記の予告として気に入っている写真を一枚紹介する。フェの王宮衣装を着たもので、王様は私。王様暗殺未遂事件などは二月中旬スタート予定の巡礼記で。（元山口放送取締役ラジオ局長）

昨年九月のベトナムの旅のあとカンボジアを再び訪れたため、気持ちの切り換えができ

ず、妻とベトナムの空気を吸う企画を立てたのだが、旅の出発が二月になったからだ。



サンタは天窓からやって来た